

日本女醫学会誌

複刊【第5号】
1960年



表紙題字 吉岡弥生
表紙絵 福田幹子

会員倍加運動を皆様の熱意で

|| 国際的には大きく飛躍 ||

吉 岡 よ る



日本女医会は昭和三十年から着手して、同三十四年七月の北海道を最後に四年がかりで全国にその結成を見ました。会員数三、三七〇名となり形態も整いましたが、日本全女医の殆どに相等した数では到底満足すべきものではありません。本会の主旨を賛同され、且つは時代に適合した様々の事業成果（課題でもある）に共鳴されて、入会される方も増えるとは思いますが、この倍加運動は何と云っても現在会員各位の熱心な御協力に待つ所大であります。結成が一段落した本年々頭に会員名簿をお送りしました外、会誌才五号を編集お手許に届けます。今後は、豊かではない会計を巧妙に使って有意義な事をいたし度いもので、この点皆様と御一緒に考えて参り度いものです。会誌才三号では理事と評議員から、御希望御意見を伺って掲載されておりますが、尚広く会員の皆様もどうぞ側面からどしどし御提案され本部を御援助下さるよう希望いたします。

眼を転じて本会の対外的関係を眺めますのに、そこには大きな飛躍が伺われます。文書の往復は益々頻繁、然も緊急を要することも屢々で、書記を担任された小野春生姉は、警察病院小児科勤務の傍ら随分お忙しい日々を過され、私共も深く感謝いたしております。その一つとしてのニュース、一昨年正式に万国女医会の一メンバーとなつた日本女医会へ、既定の通り独乙

バーデン・バーデンにての国際女医会々議に出席するよう本年始め招請がありましたので、早速全会員に勧誘方を支部長さんに依頼しましたところ、非常に多数の出席希望者がありました。是は日本女医会としての許容人員に略ぼ近い人数であり予想以上の好成績で、会長初め役員一同を驚かせ且つ喜ばせたものでした。大戦中は勿論戦後の今日実に二十年間というもの、如何に時と経済力をお持ちの方でも個人の自由渡航は不可能でしたが、このようなチャンスに出席して、世界の女医の動きを見たり親善にも役立ち、見聞を広めることは実に意義深いものであります。

万国女医会の総会は四年目毎で、一九六二年フィリピンで開かれます。本年出席の準備が間に合はなかつた方も、フィリピンは遂隣国ではあり見学を含めても、毎年国内各地で行はれる医学会の日数程度で往復出来ますから、その時もお気軽に多数御出席になりますよう今からお心組みして置いて下さい。尚又一九六四年は、本年のような理事会が世界のどこかで開れますこのように二年毎に定期的の会合の外に、沢山の外国女医の来訪者もあり、自然世界語の英語は私が申上げるまでもなく必要で、先年（一九五八年）竜副会長外会員二名がロンドンでの総会に正式加盟の使命も含めて出席されたとき、一九六二年の総会を日本では受けないかという意見も出しました由ですが、時期尚早でもあり、フィリピンが総会地を強く主張されてそこに決つたと聞きました。いつかは日本で理事会なり総会を受持つ時必ずあります。皆様この上とも少しも多く英語をマスターされるようお心掛け下さいませ。

末筆ながら今度御出発の代表の方々へ一言お餞別として申上げ度いことは、御同行の全部が各科の医者ですからこんな心強いことはありませんが、それにしても一寸した応急の手当の出来ますように手わけして御用意なされますよう、その上にも充分お体に御注意なされ、お互に寛容、謙虚、平和な楽しい旅を続けられ、留守居の私共に沢山のお土産話をお持ち帰り下さることを念じております。

国際女医会の(昔を(想(う

日本女医会会長 佐藤 やい

故吉岡会長を御見送りして早くも満一ヶ年を過ぎ五月廿二日には一周忌を迎える事になった。偉大なる会長を失い一時は日本女医会の前途も案じられたが会員諸姉の協力により順調に堅実なる歩みが続けてきた事は皆様と共に喜びに堪えません。特に今年度に於ては今秋独乙国に開催される国際女医会に正式加入国の会員として出席される事であります。会の内容は老令婦人に関する各部門に就て講演及グループ討議等が行われ会議終了後歐洲の視察旅行という計画が予定されております。国際女医会本部より招請状到着すると同時に全国各支部を経て会員の皆様に連絡した処予想以上の応募者を得ました事は本会としても大きな喜びであります。然し現今の国情より海外旅行者に対する外貨の割当を得る事が思うにまかせず種々難点がありますので本部では折角の皆様のご要望に対し現在手続その他に就いて出来得る限りの万全を尽し努力致し御答え致す決心でございます。

一方には既に御承知の事と思いますが、我々の大先輩として御尊敬申上げていた井上友子先生

生の計報に接した事であります。先生は早くより米国ミシガン大学に学ばれ女医として国内に於ての御活動は云うに及ばず又広く日本の女医として海外に紹介された。五月上旬終に九十才の御高令を以つて浴風園に於て安らかに天寿を全うせられました。

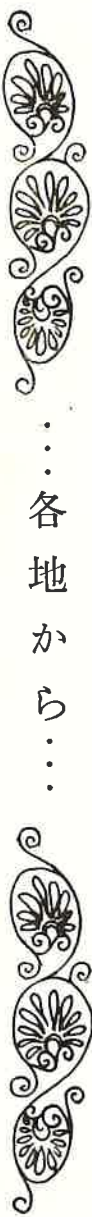
本会よりも謹しんで弔意を表し先生の御冥福を祈りました

今日日本女医会が国際的に正式加入国のメンバーとして出席するに至つた事を思う時、かつて国際女医会の前身万国女医会が折々開催される時、代表者として故吉岡会長故井上友子先生その他数名の先輩が海外勉強中一人づつ出席され日本に於ける女医の存在を対外的に認められていたに過ぎなかつた当時を追想し突に感慨深いものがあります。

此処に諸先輩の労苦に対し深甚な謝意を表し今後益々日本女医会の有り方に就いて責任を感じるのであります。

(三五・五・一五記)





研究講演と会誌発行・秋は楽しい行楽

高知県支部長 宮 地 国 栄

日本女医会誌才四号を頂き拝見しまして幹部皆様の御努力の程感謝いたして居ります。表紙の柿は福田さんのお筆の由他誌に見られぬ違つた軟かさで温かさを感じられます。

本誌により国際女医会の状況は誠に委しく報道され田舎に居ります私共にはうれしいニュースであります。国内の事もより委しく本誌を通じて各支部の活動状況なども知り、お互いの親睦がはかられたらと私はかね／＼願つて居りました矢先、編集後記に支部単位に一篇をとの記事がありましたので、この期にこの度は高知県支部の状況を御通知申上げたいと存じます。

本支部は元々日支事変もたけなわ頃昭和十五年一月に、女医の団結と親睦の目的で高知県女医会として発足し、一年一回以上の会合で純然たる親睦会で、会長などは置かず時々当番制で安易に昭和三十年まで過して参りました。然し世の情勢の変化と共にこの会も今少し力強いものにし

なければならぬ事になり、昭和三十一年二月の会合で会則を定め会長、副会長、理事を選出し、今までの親睦会に兼ねて会員の研究発表、講演会を行い、尚年二回会誌発行する事を決めました。それ以後毎年一月は新年会に兼ねて講演会、秋は行楽会とし、会誌は三十二年から年二回発行、昨年暮に才六号を発行、今度才七号発行の運びになつて居ります。幸い本会にはこの道のベテラン小出つる子副会長が編集一切を引受けて下され 会計は岡林富理事が整理して下され、よき人を得てスムーズに総てが行われて居ります。加えて今度は有力窪敦子姉の入会を得て研究講演会方面に力を入れて頂かうと大いに期待して居ります。

本会は県市医師会に同調協力して参りましたが、会員数も六十名に達し、女医としての希望も意見も反映したく、ただお膳立をしてもらつて頂くだけでなく発言権を得て其お膳立にも関係しなければ本当ではないと云う事になり、医政にも働きかけ、この前の選挙には理事其他医師会の役

・支部だより・・・

員を数名選出いたしました。

今年本女医会創立二十周年にあたりますので、今年の新年会は其祝賀をかね盛大に一月十七日曜日に三翠園水哉閣で行いました。県下全会員六十名中三十五人の出席を得、例により講演会、役員改選の後祝賀会に移りました。県知事、市長、県市両医師会会長、医業に関係のある県市会議員を招待し、知事、県医師会長の祝詞があり、来賓、会員の力のこもつた数々の余興に移り、一同愉快に有意義な一日を過しました。ことに今年の講演会には新会員窪敦子姉の講演が一段と花をさかせました。

日本女医会支部と高知県女医会との存在意義について 昭和三十一年日本女医会が発足した御通知をうけ同年十月秋の行楽会で永瀬ダム見物船上で日本女医会入会の相談をいたし出来るだけ入会するよう勧誘し、其時今の日本女医会員は大部分入会いたしました。ついで三十二年新年会の時議事に取り上げ出来るだけ入会するよう勧誘いたしました。高知県女医会は会費の支払に關係なく県下に在住する女医はすべて会員とすると云う会則がありますので勧誘はして居りますが全員入会にはなつて居りません。

昭和三十四年の理事会で日本女医会高知県支部と高知県女医会との存在意義と云う議題で、高知県女医会はこれまで通り存続し、日本女医会に入会した会員で日本女医会高

・各地から・・・

知県支部を形成し、支部長、副支部長は高知県女医会会長、副会長がこれにあたりと云う事に決定いたしました。かくして私共は今年これから医師会の役員選挙に、会誌の発行に又秋の行楽をたししみにはりきつて傍こうとちかつて居ります。

二月二日稿

お見舞

今回のチリ地震津波による各地の甚大な被害に心からのお見舞を申し上げます。

あわせて会員諸姉の御無事と御健闘をお祈りさせて頂きます。

開業医の危機と苦悩

医道地に落ちざることを願う

徳島県支部 藤 田 小 冬

・支部たより・・・

日本女医会徳島県支部は、昭和三十三年九月二十八日に、本部から福島先生（大阪女医専出身、関西医附属病院外科）を、お迎えして結成致しました、当地支部会員は、五〇名中、一九名は、東京女子医大出身。一九名は、関西医大出身。一〇名は、東邦医大出身。一名は、岡山医大附属専門部出身。一名は、岐阜女子医専出身となつております。殆どの会員は、独立開業或は、結婚後夫君と共に開業しておりまして、公私立病院その他へ、就職する者は少数であります。又開業の傍ら地元徳島医大で研究して学位を受けた人が数名あります。何れも、己れに与えられた天職を有難く真面目に奉仕いたしております。然しながら草深い田舎におりまして、開業医に対する冷酷な社会の荒波はひし／＼と押し寄せて来ります。聴診器を握つての私共の生活は、卒業後学窓の中に止まつて飽くところなき研鑽の道をひたすら進まれつつある方々には、到底想像も及ばないかわいしい茨の道の連続であります。特に社会保険が布

及し、国民皆保険が実現せんとする今日、吾々開業医の危機はいよいよ迫つて来りました。吾々は此の生活難を切り抜けたためには、日夜漸新なる知識の吸収を怠らず、一刻と進歩推移する医術に遅れをとらぬ様常に心がけると共に、一方所謂開業術に対する関心を充分に持たなければなりません。学生時代秀才と云われた人が、実社会へ出て案外成功せず、凡才として自他共に認められた人が、却つて人の意表を衝く成功をする例は沢山あります。即ち健康であつて生活能力のある者が、世の中の成功者であります。が私は考えます、医者は金儲けのための医学ではなく、社会福祉のため、人類の幸福のために、医者としての務めを果さねばならないと。ところが近時金をこしらえるためには、医者としての本分を忘れて利にさとい巷間の商人の様な考えを持つ人々が数多く見受けられますことは、ほんとは悲しむべき現象であります。

昨年十二月当地医師会と徳島市との間に、市立精神病院

設立につき、吾々開業医は医権擁護のために会員一致団結決然立つて闘つたのでありますが、会員の中に所謂目前の私利私慾に、判断をあやまり不甲斐なくも脱落者が続出して遂に、吾々は涙をのんで手をひいたのであります。誠に医道地におちたと云うべき醜態を曝露したのであります。開業医として税務署の所得額の決定に、切ない胸騒ぎに苦しむ事のない様に、或る程度医者としての自分をとり戻し静かに研究の時間を持つ事の出来る様な、又金銭的利益に屈せず信念に生きる事の出来る様な生活が、私達の身辺に来る日を待望するものであります。

今秋九月ドイツのバーデン・バーデンで、万国女医会議が開催せられる由、私共の代表として出席せられる、世界各国の女医達によつて、多大の収穫をあげられます様に期待いたしております。

私たちの近況報告

石川県支部幹事 米 林 梅 子

瑞々しい新緑が、生命の躍動を鼓舞してくれる様な感覚に満ちたこの頃でございます。

会員の諸先生にはまず／＼御健勝にわたらせなれ、御活躍、御発展の御事とお喜び申上げて居ります。当支部にお

きましては、己に御報告致しました如く、昨年九月二十四日に、才三回支部総会を持ちまして、役員改選の件に關しては、荒井支部長を終身支部長として戴き、各役員が責任を以つて補佐し、会を一層活潑に運営して行く事に決定致しました。続いて金沢大学医学部赤須文男教授を御招きして「実地医家の診療上必要な最近の知見」と題された有益な御講演を伺わせて頂きました。尚今までは一年に一度しか集いを持たなかつたのでありますが、今後は総会以外にも集会を開く事に決定し、世話係は役員の中から当番がその任に当る事に致しました。十月二十五日には高輪の荒井支部長に謝恩の意をこめた秋季集会が催されました。あたくさい心の交流、和やかな語りの中に、金沢郊外の出湯の夜はいつのまにか静かに更けて行つたのでした。本年一月二十四日には市内で新年会を開きました。吹雪の中を多数出席、今年も仲よく頑張りましょうと朗らかな雰囲気

に包まれ乍ら、時のたつのを忘れた位でした。同性、同じ職業、同じ様な生活にあげられる人達なるが故に、お互の立場を正しく理解し、あるがまゝの姿を肯定し得る私共の集い、日本女医会を更に大きく成長させる為には会員一人／＼の義務と責任が如何に重大であるかを考えずには居られません。撓みない自己の陶冶、強い団結心、おゝらかな包容力、いずれも欠けてはならないものと存じます。日夜反省しつゝ、会員の先生方と共に前進して参りたいと念願致すものでございます。

・各地から・・・

|| 低出席率を若い人たちの話合で ||

山本杉先生応援のことなど

千葉県支部長 花岡常子

日本女医会誌才四号に、春には地方の状況をという事でしたので、私共のさゝやかな御報告をさせていたただきます。

(一) 三十四年度は山本杉先生の御後援を少しでも強力にと考へ、種々の交渉、役員の打合せ会を重ねて、五月十七日に支部会を開きました。いつも出席者が少ないので、講演会を合せて致したいと思い本部に御願ひ致し、

「老人病について」 東京女子医大 三神美和教授

「高血圧症について」 東邦医大 演者未定

「日本女医会活動について、外」日本女医会本部

大村ひさえ博士
という立派なプランとなり、県下式百余名の会員に通知を出しました。

大村姉は、山本杉先生選挙の参謀格と承わり、御多忙中重々承知でしたが既に山本先生には御遊説のプランも御決定でしたし、支部長花岡とは同クラス親友の誼を以つて快

く御承諾下さいまして嬉しく存じました。

支部会当日は、東邦医大よりの御講演に御都合悪しく中止となり、又三神教授には止むを得ぬ公用にて講演時間を繰り上げられ、御講演後すぐ御帰京というあわたゞしさでいらつしやいました。問題は非常に新しいと申してもそれこそ新しい「ドックのデータ」を前夜迄医局の方々が集めてお作り下さつたという、ホヤ／＼の尊いお仕事を御発表下さいましたのですが、出席者が揃わず、誠に申し訳なく、又、残念に存じました。又、先生には折角お喜び戴ける様にと準備致しました御夕食にも御出席叶わず、心残りでございます。

会はひき続き、大村姉のいつに変わぬ御雄辯にて、本部活動より山本先生の御後援の御依頼とほんとうに納得の行くお話ぶりでありがたくお伺ひ致しました。

終つて静かな料亭、喜寿に席を移し、大村姉をかこみ有志の者十三名が夕食を共に致しました。一同、心を開いて

和氣あい／＼の(ワイ／＼さわきに近かつたかも……失礼)楽しい時を過し、大村姉よりは、「千葉にしてはよいお席ではある」とお賞めのお言葉を戴き、日曜日に無理に開いてもらつた甲斐ありと、支部長は面目をほどこしました。

(二) 山本杉先生の御応援について

先生の前回の御出馬には、女医会として盛り上げる力のかつた事と、花岡自身としても種々の関係で表面的に傍く事を出来なかつた事を良心に問われてをりました事として「今回こそは」と決心致しました。

本部よりの御連絡、又、自民党千葉県支部連合会に知人もおりましたので、パンフレット、ポスターの発送に都合よく、又県下の有力な日本女医会々員の御協力を得て、微力乍ら、出来る限りは助かせて戴きました。

最後に五月卅日の先生の宣伝カーにも同乗させて戴きました。杉村姉、木原姉、田那村姉と花岡。之は始めての事として、誠意と熱心のみではうまくゆかず、自分ながら口惜しく感じましたが、この経験の生かす事の来る事もあるうと念じております。

この選挙で感じました事は、
一、千葉県下(或いは日本女医会全体)での活仿の出足が少しおそかつたということ。

一、日本女医会として区別することは全然ないのです
が、鶴風会の方々が実によく活躍して下さつた事には胸の熱くなる思いで、心から感動申し上げました。

(三) 三十五年一月に千葉市内の小支部会を開いてみた事
について

毎年お正月も終る頃、親しい同志の友や、同郷の方々をおよびして半日を楽しむ会を持つておりましたが、本年は花岡が(市内の女医さん方に保健の話でもしてあげよう)と申してくれましたので、電話其の他で御連絡いたしましたところ直ちに十三名の方々がお集り下さいました。一月廿五日の事でした。

院長室に集り、新しく始められた市の国保の事、健保について等、質問や、県医師会長としての立場よりの希望や御ねがい、又将来開業医は如何にあるべきか、などの話がはづみ病院講堂で、「結核や癌」の映画やスライドを見せてもらい、冷えた身体を拙宅に移して戴いて、私の手料理で、すつかり腰をおちつけてのおしゃべり会となり、お酒もまわり、我等のお正月を致し、「有益なよいお集りであつた」とお喜び戴いて散会致しました。

県下数々の所でこうした集りが持てたら、どんなによいかと考えております。

(四) 三十五年春期支部会

一月半ば、同窓生摺沢姉より市内轟小学校にPTAに、山本杉先生御講演の幹旋方を頼むとのお話があり、お願いの結果、三月六日御来葉と決定致しましたので、昨年の事もあり、又今度の事もありで、日本女医会にも、一度お顔をお見せ戴きたいと考え、役員の皆様にお計り致し、御賛成を得て、山本先生へもお願い申し上げ、御快諾を得ました。

会員を多く集めるのには如何にしたものかと考えております矢先、社会教育協会の千葉県支部長である花岡が、以前、山本先生に御講演をお願いするかと申しておりました事を考え、女医会と共同で会を持つ事とし、更に、資金面、又、多くの婦人層（県下婦人会、県未亡人会）に呼びかける手段として、結核予防会千葉県支部、県対癌協会も共々にとり話になり、役員の方々の御賛同を得ましたので、その線を進める事になりました。

同封のパンフレットが二月廿六日入手の予定でございましたので、勝手乍ら本年改選すべき役員改選を一年見送る事とし、廿五日夜に、急ぎガリ版二百枚をすり、廿六日に発送準備を総てととのえまして、稲毛の中川副支部長宅に御依頼に行き、中川姉より船橋市犬飼副支部長に御連絡方をお願い致しました。

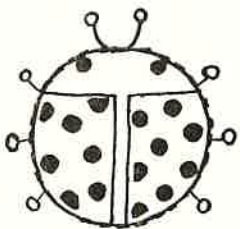
当日は講演会の形で御返信はいただきませんでした。

相当にお集り戴けるものと、張り切つて準備を致し、結核予防会、県衛生部、県医師会よりも夫々応援をして下さいましたが、結局女医会々員は拾名で、各婦人会会員合せで百名足らずでほんとうにがっかり致しました。

当山本先生には、朝からの御活躍で、斬次お時間がずれたため、映画や、平川町よりの講演も先にすみ、又、花岡の結核の新しいデータをスライドで説明したりして時をかせぎましたが、先生の御講演の頃には入場者も多少かえり始め、益々淋しくなり、豊かな御経験談を感銘深くお伺い出来ましたのに、聴衆の少ない事は、誠に残念でございます。終つて、県医師会役員室にて、女医会主催のさゝやかな夕食会を致し、この会には、加藤県衛生部長、鎗田子防課長、花岡県医師会長、結核予防会林事務局長、田那村市郡医師会理事、臼井代議士夫人、沼田未亡人会々長外、日本女医会員十一名で御粗末な食事ながら、県医師会長より寄贈のビールで比較的和やかな雰囲気のお話し会となつておりました。

いつの会にも、どうして会員の集りが悪いかと考え、埼玉県、神戸市より御報告を拜見するにつけても、支部長の重任を廢して、若い方々の御意見でやつて戴くのがよいのではないかといつも考え、この次こそ、そのようにと思いつけております。

(三五・五・一五)



井上友子先生を

|| 偲びて ||

竹内茂代

島峰いち子

大貫セツ

◆物静かなおかた

(竹内)

井上さんに始めて御目にかかつたのは、私が医師の資格を得た明治四十一年でありました。日本女医会の席上で吉岡彌生先生から紹介され、米国シンガン大学卒業された方と聞きました。日本服を召された物静かな方で其頃華族女学校実践女学校山脇女学校などの校医を受持つて居られるとのことでした。

華々しい活動はせられないが落付いた方で外国の女医が来朝された時は、日本女医会で歓迎会を催されます際にはいつも通訳の任に当られました。

御身よりも多くなかつたようでしたが我国上流家庭との

交渉はあつたようでした。

戦時中浴風園に入られたと承つて御見舞に行つたこともありましたが御不自由はないようでした。

終戦後暫く御無沙汰いたして居ります間に御逝去との知らせを受け驚いて浴風園にかけつけ院葬に立会いましたが大勢の老人達に惜しまれたようでした。

愛知県に居られる佐久間淑子様から遺族代表として御挨拶をいただきました。

◆浴風園の盛大な葬儀

—— にんじん婆さん —— の仇名

(鳥峰)

昭和卅五年五月二日。故井上友子先生の告別式が若葉蕉の都下下高井戸の浴風園に於て盛大に行なわれました。

先生は長い間御病床にあられましたからこの事あるはかねて期したることながら今更の如く哀悼の極みでございました。

式場には秩父、高松、三笠の三妃殿下より御下賜の生花其他生前関係せられた各学校や諸団体よりの花輪が多数飾られ、ありし日の先生の御徳が偲ばれて涙新たなものがありました。井上友子先生と私とは最も古い交際でありまして多分明治四十三年女子学習院の春季体格検査の折に私が学校より眼の検査を依頼された時に始まります。

当時井上先生は女子学習院の外に実践専門学校。才三府立高等女学校。青山学院。山脇女学校。東洋英和女学院。順心高等女学校、等以上七校の校医をして居られました。

其の翌年四十四年の春から私も右七校の眼科を担当する事となり井上先生と御一緒に一校の検査がすめば次の学校の検査と次々と陰の形に添う様な各学校をまわつて歩きました。

若い女学生相手の仕事ですから自然と気持も若返り先生も時々茶目ぶりを發揮せられ生徒を笑わせることも度々でした。

毎年毎年この様な事を繰り返してとうとう卅五年を過ぎ

ました。所がたまたま大戦災のために学習院初め大方の学校は灰尽に帰し井上先生の番町のお住いも私の家も皆焼けて了いましたので体格検査も自然中絶の已むなきに至りました。省みますと卅五年間先生と御一緒に仕事をいたし其間一回の事故もなく続きましたことは偏えに先生も私もお陰と健康に恵まれて居つた為と存じます。

井上先生という方は実に精力絶倫で七十才を越えて居られました。一日四五百人の検査をなされても疲れたと口に出された事は一度もありません。学校の先生方も時には「御老体にてお疲れでしょうから少しお休み下さい」と云われまますと却つてごきげんが悪くなりますので恐縮して居られました。

それから私が常に敬服して居ります事は仕事に対する熱意と責任感です。女学生の有りがちな偏食の矯正に最も意をそゝがれ肉食に偏する学生には極力野菜食ことに「にんじん」「ほうれん草」を採る事をすゝめられました。

年若い女学生は大ぜいの友達の前で「にんじん」「ほうれん草」を食べるように云われるのが恥しく時々先生に注意をされる事を嫌う傾向もあつてしまいに「にんじん婆さん」と仇名をつけられて了いました。

然し先生は一向に意に介せず徹底するまで同じ事を一日に何十回となく繰り返され時には野菜物の食べ良い調理法

までも説明される程でしたので聞いております私共も先生の熱意にはほんとうに頭の下がる思いでございました。

尚先生は若い時から熱心なクリスチャンであり又アメリカで苦学をして医者になられた程の方ですから常に忍耐強く何事によらず強い信念を以つてやりぬく意志の人でした。従つて多少頑固の点もありましたが。

聖書を枕頭に清らかな生涯

又先生の日常生活は至極質素（衣類、食物等）で自分には薄く人を遇する事が厚く非常に義理固い方で、謂ゆる古武士の風格を備えて居られました。

尚先生は各方面に交際が広がつたので浴風園へ入られてからも学習院の校医であられた関係で皇后陛下や内親王様方よりの御見舞品（毛布や菓子等）があり、又アメリカのお友達からも衣料や菓子類を沢山に送つて集りますと其れを入園者に分け与えて共に喜ぶという風でした。この様にして戦後物資の乏しい時代にも拘らず余り御不自由なく却つて私達がお伺いしますとあちらの珍らしいお菓子等を頂く程でした。

当先生には諸方より温い救援の手をさしのべられ、例えばアメリカのお友達が抛金して園内に先生の住居を建てて

上げ度いとか、又アメリカへ連れて行つて老後の面倒をみて上げたい等の申出がありましたも先生は一さい人様のお世話にはなりたくないとい固く辞して浴風園の生活にこの上なく満足され不平を漏らす様なことはありませんでした。

いつも聖書を枕頭に置かれ「何日でも神様のお召があれば喜んで参ります」と口ぐせの様に云われ少しも死を恐れず只々感謝のあけくれであられました。

ほんとうに井上先生という方は立派な信仰をもたれた清い生涯を送られました事をたゞえて止みません。
（五月十四日夜認む）

白十字にコロニー式病室など

三宮様からの花環・風変りな葬儀

（大 貫）

(1) 井上友子先生は明治三十五年四月頃から東京に住所をもつておられました。初対面は大正十二年頃日本女医会例会の時であつたと思えます。当時諸校の校医であらせられた先生のお手伝に時々たのまれて某々女学校に参つたことがありました。

(2) 白十字と先生の関係

白十字は明治四十二年頃主としてクリスチャンの医師の方々の発起で創立され先生は評議員を永くしておられました。

昭和八年に茨城県鹿島郡神栖村の海岸（鹿島灘）と神の池の中間なる白砂青松夏涼冬暖の地に太平洋サナトリウムとして主人大貫が発足しかけた時白十字の専務理事林先生等から所望されたので其敷地一万八千坪は同会に引次ぎました関係でその頃私は井上先生と広大な其地方を自動車でかけ廻つたことがありました、時々浴風園へ先生をお見舞に参りますと鹿島で自動車に同乗したと思ひ出話をなされますので白十字のお仕事のことゝ想像いたしました。三十有年前のお元気なおすがたを夢の様に思ひうかべました。その頃から白十字には次々とコロニー式病室が出来上り目下ベツトは五百ありまして現在では社会福祉法人白十字恩賜保養農園という名称で中々盛大でございます。先生はさぞご満足であつたことゝ思います。

(3) 戦時中はいろいろとお困難つゞきであつたことをあとで承りましたが遂に浴風園へ御入園なされたのです。

(4) 浴風園 財団法人浴風園は大正十四年に出来まして杉並区高井戸三丁目の高台にあつて四季花絶えず広大なる敷地に幾棟もならび其名の如く浴風爽快であります。この園に先生慰問のため春秋二回ずつ約十年近く島峰女史と二人

で通いつづけました。先生の御入園後お元気であつた時代に一室をかりて日の出会を開催し十名ばかり日医の同窓生が集りなぐさめてあげたこともありまして先生は非常におよろこびになられました。いつも先生との話題は子供のことや吉岡彌生先生のことそれから自動車の話が多く、もつと永く遊んでいくれと元気に申されました。それなのに昨年春頃から様子が変られ御老衰のためかほんやりと、わかる様にならないう様にならぬと申される様になりました。其後数回危篤状態になりましたが直によくなられました。

本年初め頃日本女医会の代表として二人でお見舞金を持参し耳の近くで大声でよく話しましたらおわかりになりましたのでほつとして帰る會長に報告いたしました。

(5) 悲報 四月卅日午後一時半九十歳の高齢でらくらくと神に召されて昇天なされた旨、松村えみ子様から電話で御通知がありました。五月二日に浴風園の礼拝堂で静かな告別式がありました。女医会からも佐藤會長先生はじめ竹内先生福田先生それから島峰様と私等が参式しました。大広間は満員で秩父、高松、三笠の御三方の宮様及び白十字等のお花等沢山美しく飾られ静かな風変りな告別式でありました。其時導師のお話によりますと先生は人様から世話を受けることは希望せられず浴風園にて最後までお世話

になられることを希望せられ満足なさつて、おすごしになられたことを報告されました。来る五月廿二日には別に九段教会で追悼会が開かれますので私も出席の予定であります。
(三五・五・一一)

— 作品 —

けい子

暁夜のふゝみ鳴りする鳩時計

夕まけて半蔵門の花の雨

日輪の瓔珞なせる糸袂

四国旅吟

北沢麻女

(四月一日～六日 於徳島市 産婦人科学会爆撃
に出席後、徳島・香川・高知の三県を巡る)

徳島 (学会三日間観迎会あり)

苔の花由緒ありげな宿庇

ひいてけしや風邪寝の白樺

(遂に風邪ひく)

学会の討論遅日果てしなく

(学会々場空し)

香川

花の山幾曲り直下潮の渦

若布刈の船渦潮にもまれゆく

潮荒く噛み合うところ紺濃ゆく

夕椿音頭に和む影籠

(徳島県議会観迎会かくし芸に、にぎわう)

高知

吉野川に沿いゆくバスや花葉風

夏柑の間の段島桃咲ける

新館播摩や橋の芽木光る

(窪女史の新開業拝見)

夜桜や天に浮き立つ高知城

(学会観迎会盛會、とりわけ女医先生方の手踊拍手送る。至誠会高知支部会のパーティ、大勢参加、なかなか意気軒昂)

故杉田つる博士

— を忍ぶ会 —

(三周忌に)

坂本八千代

★・★・☆・★・★
★・★・☆・☆・☆・★
★・★・☆・☆・★・★

光陰矢の如し
とは古い言葉で
あるが、本当に
月日のたつのは、
矢の走り、水の
流れと同じ様に、
風と共に去つて再びかえ
つて来るのではない
ので、私共

はその過ぎた月日が、とてもなつかしい。故杉田先生とお話が出来なくなつてこの四月廿日、満三年になる。折にふれ同じ思いの人々と語りあいたいと願ひながら誰も公私の用にかまけて、発起人になつて下さらないので、引込思案の私はその情やるかたなく、中鉢二郎博士と石原兵永牧師に御相談して、四月二十四日松本楼でさゝやかながら、杉田先生を偲ぶ会をしようと思ひたつた。

先生は杉田玄白の六代目の後えいで独身でいられたので目下の処、杉田家の医師としての最後となられた。然し優終の美をかざられた事は嬉しい事であつた。先生は日本歯科大学の前身日本医学専門学校出身で医師となられ、父君が故弘田先生と同窓でいられた関係から東大の小児科教



殊に精薄児などの上によせられる慈悲の心は、男の方の出来ぬことで先生は人間として、又女性としての幸を持たれたことは全く神の賜と私は信じている。前述の様に実子はなかつたが花子さんという方が十七年も先生の世話をされ、東一に入院された時も一人で看

病され、己の婚期も忘れて先生に仕えられたのは矢張りその人格にふれて先生の許が去りがたかつたためと義兄さんが話された。昨今、実子を持つても親子関係が面白からぬ人の多い中に人の子に、こんなに手厚い看病をされて永眠された先生は幸福な方だと思ふ。

授、あのむづかしい弘田先生が女医として初めて入局させて下さつたのであるが、三十年一日の如く東大の小児科でコッcottと勉強され沢山のアルバイトをされ、栗山教授に論文提出を進められ乳児のビタミンについての主論文で学位を得られたのである。立派な医者になれと云われた父君の遺言に従われ、実に立派な医師として一生を終えられた事は私共女医の誇りとするところである。

私が先生を知つたのは昭和の初め頃で私の子供を診察して頂いたのに初まり、初めの内は冷たい印象をうけたが交際が度重なるに従ひ、先生の人柄がわかり私の最も尊敬する先輩の一人となつた。後に昭和二十六年二十二才の男児を亡くして放心していた私は、医業にも身が入らず、その頃戦災後東一の二宮病院に奉職していられた先生を度々おたづねして学問、宗教、文学、教養などのことについて語り、大いに共鳴して夜を徹したことなど思ひ出して、今やその人の亡い事が淋しくもつともつと話したかつた残念でならない。

独身の先生は、たしかに愛することに向うていられた様な一面を感じたが、二宮の保育園では全く母性愛を得られ、幼児の様になつて昇天された。先生が戦災にあわれ一時は失望落胆されていたが、それによつて二宮の生活が与えられ、風光明媚の二宮の海を歌ひ、多くの子供を愛し、

杉田先生は、勁草の同人で短歌をよくし、窪田空穂先生を師とし、宗教界では、矢内原元総長などと共に無教会主義のクリスチャンで、内村鑑三先生から数少ない洗礼をうけられた方であつた。追悼会の当日矢内原先生と窪田先生は御病氣のため欠席されて残念だつたが、楠山東大名誉教授を初めとして小児科の医局の先生、勁草の方々、石原牧師、女医の方は、親友の大貫、島峰姉を初め、福田幹、児玉琴枝、大石洋子、二宮から高橋、小野江、岡本さかき姉が、寸暇をさいて出席して下さつて三十人を越え清らかな感じの集りであつた。各自一言づつでも話して頂き各方面からの讃辭は皆様におきかせしたい思ひであつた。百二十人位の通知に九十パーセントの返事のいづれもが欠席の理由を認めいかにも残念な気が現れていて事務者も誠に心地よい事であつた。先生は救難協会の理事で、亡くなりになつた時、そんな事業のために寄附をなさりたかつた先生の苦心をよく知つている私は、それが出来なかつた代りに、皆様にこの事業に賛同して頂いて、年額普通会員二百円、維持会員五百円の僅かな寄附で、直接その仕事にあたつておられる方々の働きをお助けする事が出来れば、人間として、殊に女性の最高の職にあるものとして、その生活の向上と共に、何か世のため人のために、幸福を分つことを忘れないうでいたい心から、故杉田先生のお心に添えて私からも、一人でも多くの方の御入会をお願いして筆を置く。



真砂路

青樹

(1) 故杉田つる子先生の訃

四月廿日は故杉田つる子女史の三周忌であった。坂元八千代先生が肝煎となつて、その杉田女史を偲ぶの会が催された。会するもの三十余人、宗教、医者、短歌に関する人達でまことに意味深いものであつた。先生は学者であり、歌人であり又深い信仰をもつてゐる人であつた。七十六才の高齢で喘息と老衰のために亡くなられたが、その一生の終りに近づいたころの日常をつき添いの方から聞いたけれど、まことに考えてみなくてはならない話だと思ふことが多かつた。

①身支度について、先生が病床に就かれる直前は毎朝起きてから出勤までの(保育園)支度に一時間半かかつたというそれは身体が弱つて、自分自身のことをするのに、そんなにも骨がおれたのであろうものをこれが普通の人間なら

私はこの真砂という字がすきなのである。細かききれいな砂浜がどこまでもつゞくその路のように、こまかないろいのかきつゞけて見ようと思ふ。

「あくもうだめだ」と寝つくのが当然であるのに先生は医者であり学者であるために病氣ではないとの自信のもとになお通勤をしておられた。

②食事について、先生は食事を召し上つて、自分がどれだけ食べたから満腹するのか、これで足りるのか足りないのかそのけじめがわからないと仰つた。これは世の中の老人の上によく聞くことである。うちの老人はたべても、たべてもたべたがる。今たべたばかりにもう食事の催促をする、ほんとうに飢えさせておくのでもないのに世間態がわるいと家人の声をきくけれど、この先生の仰つたことでほんとうに世の老人を扱う上についての参考ともなる。

③衣服について、自分はどれだけ着ていてよいかわからない、この時候でこの支度で丁度よいか、あついか、さむいか、がわからないと仰つた。「それでは寒暖計を見て調節いたしましょう」と家人が言つた由である、季節が

夏になつてゐるのに厚着をしている老人をよく見かけるけれども、これもこの言葉でよくわかる気がする。以上のように杉田女史が残されたこの言葉は、だれでも知つてゐることであつて気がつかないことなのである、しかも老人の取扱上大なる教訓である。老齡婦人に関する問題が次回国際女医会にも議題になつてゐる今日我々はこの問題をよく考えてみるべきであらうと思ふ。

(2) 故井上友子先生の訃

井上先生のことについては他の先生方からの記事で御承知のことと思うので私、これも亦老齡婦人の問題にらみ合せて考えてみたいと思ふ、井上先生ほどの知識人であり明治の初年に外国で医者になつて帰国され、国内で相当の地位を得て居られたことは、人の知るところであるにも係らず戦後の先生の生活は決して安穩無事であつたとはいえない。財団法人浴風園で安らかにお暮らしになつたと云えばそれまでであるけれども、私の知つてゐる多くの養老院生活者の話を聞く時、それを安穩な生活と思えないのである。先生は人格者であり信仰深きお方であつたから常に自分の現在の生活に満足しておられ「死をおそれずべてが感謝のあけくれである」といわれた、先生の心境には私も頭が下るけれど、それを肯定するには、余り娑婆気が

ありすぎのかもわからないけれど、とても心底からそんな気持ちになれるものではないと思ふ。でも信仰が深ければそんな気持ちになれるかも知れない、故杉田女史の歌に「生きてけふ楽しからずと思はねどおぼろげに知りし彼世も恋し」とあるけれどそんな心境にはいつなれるだらうか。

(3) 老後と社会保障の問題

井上先生が逝かれたときジャーナリストは故吉岡彌生先生との比較比判をしていた、吉岡先生には子供があり多くの立派な弟子があつたから最後まで立派であつたが井上先生にはそれがないから養老院でさびしく逝かれたと記載されてあつた。まことに一応そうも考えられるけれど、そこにはある条件というものが附随するのではなからうか、子供にも種々の別があり、弟子にも異つた条件がある。本態と条件とがよく合体したときは幸福であり、悪く行われたときは不幸となる。こゝにおいてよい結果をのぞむ時たゆまざる修養が必要となる。

ともあれ老人を安らかに了らせることは、どうしても社会保障ということに及ぶと思ふ。目下我が国における社会保障はまだその緒にもついていない感じである。殊に老人施設は幼児におけるそれよりも甚だ不完備である、どうしてもこの際老齡者を収容し、たのしく、安らげく老を養う施設を、又病院には老人病々室を設置し老人が不自由なく養生の出来ること等を考えねばならないと思ふ。



『日本女医史』を書く II 副稿 II その編纂について

秋 山 寵 三

詩人で、弱虫で、かほそいくせに、偽悪家で、ケンカには奇妙に強かった私の弟は、フィリッピンで殺された。病軀を戦場にすてられたのである。稚い妻と、生れたばかりの子がのこされた。

——戦後、この子持ちの女子学生は、大学を出て、今は危い三十代を、小さな印刷屋の経営者として、両親と、音楽志望の高校生となつた娘をかかえ、文学に執しつゝ生きている。その、私には義妹のM子が、自宅に近い、福田女史の、お宅の、奥の一室をかしていただき、自分だけの仕事部屋にしていた。私はその招かれざる客であつた。

「日本女医史」を書く機縁はそこから始まつた。三年前の（昭和三十二年九月）残暑のきびしい夕風の宵だつた。

※ ※

「日本女医史」の、その根幹を成すものは、明治、大正をとつた「現代日本女医史」に他ならない。古代から徳川期に至る資料も、及ぶかぎり渉猟し書き漏らすつもりはないが、福田女史から私に移された資料は明治以降のものであり、「日本女医史」の資料としてはその一端にすぎない。書くにあたつて、やつぱり私は資料に執したい。

資料に拠ることのほかに、資料そのものを、なまで生かすことを心掛けたい。

なまの資料そのものの面白さは、リライトされた叙述のそれをはるかに超える場合が、ままあるというばかりでなく、のちに、必ず出てくるに違いない女医史の別な研究者のためにも、正しく活字にしておくべきだと思ふからである。

※ ※

この「日本女医史」に御登場願う方々には、ぜひお目にかかりたい。また今は亡き方々の場合も、その人の育くまれた周囲の風俗習慣に直かに触れて、従来この種の歴史に軽視されがちな「人間」を描くことに意欲を注ぎたいと思つている。

そのための、正史にはずれる心配のない場所での、筆者の自由な解釈を許されたい。

※ ※

会員諸姉、ならびに関係諸賢の絶大な御支援、御鞭撻をお願いして、私は「日本女医史」に精根を尽すつもりですが、国の歴史がその国民のものである如く、「日本女医史」は、女性医家の、即ちあなたがた自身の所有する、光輝あるものでなければなりません。

私は自分の才能を信ずるほかはない。たいへんです。倒れたら助けて下さい。

★ ★

「日本の女医史における明治維新は、政治上の維新から見ますと、ずつと後れておりまして、」と吉岡彌生先生も生前書いておられます。

明治十七年六月（一八八四年）それまで女性には固く鎖されていた医術開業試験が実現したのは、先人荻野吟子、高橋端子、長井せい子、岡田みつ子氏等の強い信念と、絶えざる努力によつてかちえたものでありますが、それはただに、女性の近代医学参与ということのみにとどまらず、後の男女同権、婦人解放運動に先駆する日本近代史の一頁を飾るものと云えましよう。

古代から、江戸時代までを別にしても、以来、わが女医界は、八十年の歳月を、日に月に、進歩と発展の道を歩みつづけながら、その誇るべき業績は、ともすれば内外に軽視されがちであることは否めません。現在歴史物ブームなお衰えを見せぬジャーナリズムの上にさえ、女医史の記述は極めて稀であります。この時この観点に立ち、亡き吉岡彌生先生の御遺志を体して、「日本女医史」の編纂を決意したのであります。幸に会員諸姉の御賛同を得て全会員の購読を、ひたすらお勧め申し上げます。執筆者秋山龍三氏は、一流のジャーナリストとして令名あり、多年の経験と識見は、別掲「日本女医史を書く」に見られる通り、名文を以て鳴る情熱の人でもあります。独得の手法と鋭敏な感覚は、必ずや現代に生きる「日本女医史」を、興味深く浮き彫りにして下さることでしょう。

昭和三十五年五月

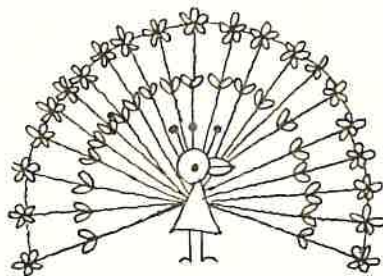
日本女医史編纂委員

▼体 裁……………A5判大型、布装函入豪華本、写真豊富

予約のお申込については追って別紙により詳しく

おしらせ致します。

その節はふるつてお申込下さい。



第(五回)日本(女医)会総(会)

“本年度は大阪で総会”

福 井 繁 子
川 那 部 喜 美 子

四月の理事会で、今年度の本会総会は大阪で開催と決まりました。当地の役員一同は、日本女医会発展のための総会の大阪進出との御提案に対して、大いに賛意を表したのでございました。又、この機会に「関西を満喫」との理事会の御意向を反映いたしましたのでございます。出来る限り、会員皆様の御満足のまいるような観光計画を樹てたいと、協議しているところでございます。本誌発行に当り、今日はとりあえず、左に、予報を掲げることいたしました。詳細は、追って、本部から御連絡申上げることになつております。十一月中旬、は関西では、丁度、錦繡の秋の最高潮の頃かと存じられます。皆様の賑々しい御参加を、お待ちしております。

総会並びに観光計画の予報

昭和三十五年十一月十一日(土) 神戸市内並びに六甲有馬観光

同 十三日(日) 午前中、奈良観光

午後、大阪、総会並びに懇親会

同 十四日(月) 京都、王朝文化史跡観光

以上

日本女医の動態調査
健康に関するアンケート

(該当するところに○印)

氏名 年令 才
出身校 専門科別
卒業年度

一 勤務場所、移動順位及び勤務年限、職種別を書き入れて下さい。

- 順位
() ①開業 (年) 主人と共に、独立
() ②官公立病院 () 院長、医長、医員
() ③私立病院 () 院長、医長、医員
() ④保健所 () 所長、課長、医員
() ⑤診療所 () 所長、医員、
() ⑥家庭 ()
() ⑦その他 ()

二 現在の健康状態、病名、期間も記入して下さい。

- (1) 健 (2) 急性疾患 (3) 慢性疾患
(4) 妊娠、分娩 (5) その他

三 既往症、病名、期間二つ以上ならば全部記入して下さい。

- (1) 無 (2) 急性疾患 (3) 慢性疾患
(4) 手術をうけたこと 有 () 無
その後の経過 良 不良
(5) 分娩 (回)

四 罹患経路 (出来るだけくわしく)

- (1) 過労 (2) 伝染患者から その他
(3) 遺伝性疾患 (4) 実験中 (5) 炎害 (6) その他

五 病気と生活

- (a) 勤務との関係
① 充分休んだ。自分から。すすめられて。
② 忙しいので無理を押し通した。
③ 生活に困るから無理を通して休まなかつた。
④ 時々休んだが一定の休養時間をとらなかつた。※

※
⑤ 上の人から
休養をすすめら
れた。休むとい
やな顔をされ
た。

⑥ 途中で療養
を続けられない
ことがおこつ
た。

⑦ 最新、最高
の治療を受け
た。

(b) 療養中最も
困つたこと。(差
支えない程度に
くわしく)

- ① 家庭上
② 勤務上
③ 経済上
④ 精神的
⑤ 以上の困

難は解決されま
したか。

可能 不可能

六 その他

われわれ女医の
健康管理につい
て何か御意見が
あれば、お聞か
せ下さい。

日本女医会本部

日本女医会費

(昭和34年10月～昭和35年3月)

収入之部

会費	368,450	故吉岡前会長ヨリ
雑収入	420,597	寄附金 100,000
銀行利子	4,220	広告料 165,500
		会合費 101,200
		其他 23,897

収入合計 793,267

支出之部

通信費	127,767	会誌、名簿発送料 79,200
消耗品費	2,430	電話料 17,035 他
印刷費	362,270	(名簿印刷費 277,330
備品費	41,021	会誌 59,850 他)
雑費	183,921	(アテナ印刷機)
暖房費	9,000	会合費 118,570
出張費	7,960	見舞金 15,000
給料	114,000	会議茶菓料、事務員特別 手当、交通費、其他

支出合計 848,369

差引過不足高	-55,102
上半期繰越残高	321,796
翌年度繰越残高	266,694

◎ 日本女医会費、国際女医会費共三十
五年度より会費五〇〇円となりました。
別紙請求書通り、振替用紙御利用の上至
急御送金頂き度、御願ひ申し上げます。
……………★……………
二十六頁のは北海道で始められたこと
で、全国的にも調査してはという提案が
北海道からありました。御協力下さい。

国際女医会費

収入之部

会費 66,198

支出之部

雑費 10,000

差引残高 56,188

上半期繰越残高 56,557

翌年度繰越残高 112,755

資産之部 (35年3月31日現在)

富士銀行預金 170,972

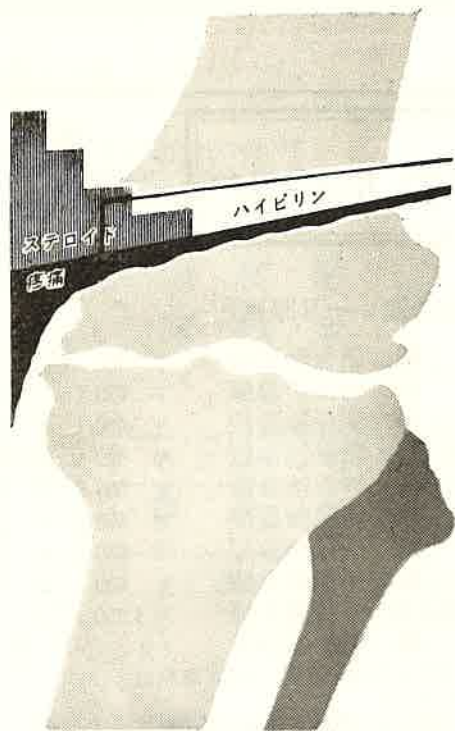
安田銀行預金 5,596

振替預金 165,483

現金 37,398

合計 379,449

三十四年度下半期決算報告



ステロイドから**安全に**離脱させる

リウマチの持長療法

一たびステロイド療法に依存した後は、これより離脱するのが容易でないとされている。ハイピリンの応用でステロイドを漸減し遂にはハイピリンのみに安全に移行し得ることが実証されている。

胃障害の懸念がない…腸で分解吸収されるので胃壁を刺激することなく長期間にわたり投与することが出来る。

ステロイドから移行…ステロイド剤を投与中の患者は危険な反撥症状を起さずに安全に本療法に移行せしめ得る。

持続、安全性が高い…長時間にわたり血中濃度を維持し高血圧や心疾患患者にも安心して長期間連用せしめ得る。

ハイピリン錠

Aluminum Acetyl sal icylate 文献及試供品送呈
100錠 500円 • 500錠 2,000円 確保適用

東京都文京区竹早町八八
エーザイ株式会社
大阪・札幌・名古屋・福岡



王冠印

海の幸 山の幸 昭和の製品家の幸!

いつも安心してお使いになれる昭和の製品を御愛用下さい

昭和天ぷら油

昭和の家庭用小麦粉

昭和サラダ油

昭和のホットケーキの素
ゴールド

昭和産業株式会社

東京都千代田区神田鎌倉町5番地 電話(251)代表7101



労働大臣許可

美徳看護婦 家政婦 紹介所

所長 杉本 はな

所在地 東京都新宿区若葉1丁目8番地
電話 四谷(351) 1 8 0 6 ・ 0 3 5 5

業務案内 創業60年の看護婦会で先生方にははじめからずつと御支援頂いております。なお今後一層のお引立をお願いします。

「日本女医会誌」通刊第百二十四号
昭和三十五年六月十日発行
定価 廿円
発行人 日本女医会
編集人 福田 幹
発行所 東京都新宿区河田町一
至 誠会本部内
印刷所 東京都中央区宝町二ノ七
秀峰美術印刷株式会社

編集後記

およそ何事によらず一つの仕事をまともめあげるといふことは根気のいることである。たとえほんの小さな小誌でも、小さければ小さいなりに気がもれる。今回は井上友子先生の計報で諸先生から玉稿を頂き紙数増ができたようなもの、前号後記でお願いした各支部からの投稿は御覧の通りである。実は去る五月八日開催の評議員会に各地方から出席された支部長の方々の大多数から「他支部の状況を知らたいから出席した」との発言があった。このように遠路わざわざ熱心に御出席下さる方々のある現在、せめて一言一行なりとも支部の事情を誌上交換することが出来たならば、まことに一石何鳥かの価と申すべし。と、只全国会員の本会に対する御関心を期待して止まない次第である。

H・O

各科別 新保険診療シリーズ

最新の疑義・解釈・
甲表 乙表の点数の違い一目瞭然

① 総説	編	新保険診療	¥ 400 (発売中)	〒 32
② 外科	科	新保険診療	¥ 680 (/)	〒 32
③ 耳鼻咽喉科	科	新保険診療	¥ 480 (/)	〒 32
④ 整形外科	科	新保険診療	¥ 420 (/)	〒 32
⑤ 内科	科	新保険診療	¥ 900 (/)	〒 40
⑥ 眼科	科	新保険診療	¥ 350 (/)	〒 32
⑦ 小児科	科	新保険診療	¥ 650 (/)	〒 32
⑧ 産婦人科	科	新保険診療	¥ 600 (/)	〒 32
⑨ 皮膚泌尿性病科	科	新保険診療	¥ 1,250 (/)	〒 60
⑩ 結核科	科	新保険診療	(未定)	

病歴+請求明細書記入実例+解説の形で各科毎
(甲・乙両表の実例)
に100~250例の実例による解説を附した実用書。

編集
東京都技師 岩城 栄一
/ 笠井 竜治
地方技師 山川 速水
/ 岡野 勝江
/ 寺田 幸夫

日本図書館協会選定図書

食餌療法シリーズ

大病院で患者に喜ばれた四季の献立をもとにした栄養料理

- ① 高血圧の食餌療法
一本態性・腎性動脈硬化症—
¥350 40
 - ② 胃腸病の食餌療法
—胃炎・胃・十二指腸潰瘍—
¥350 40
 - ③ 肺結核の食餌療法
¥280 32
 - ④ 妊産婦の食餌療法
—前期と後期・産褥期・妊娠中毒—
¥350 40
 - ⑤ 糖尿病の食餌療法
¥350 40
- 以下続刊【内容見本贈呈】

各紙誌絶讚!!

全12冊
各冊共B5変形判
各頁に朝昼夕の献立料理の作り方、写真説明、各疾患についての解説つき。

東京都文京区 駒込片町3-2 医歯薬出版株式会社 電話(941)7137(代) 振替東京13316